

第54回日本創傷治癒学会研究奨励賞を受賞して

慶應義塾大学医学部

種田 桐子

この度は研究奨励賞という栄誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。慶應義塾大学医学部形成外科学教室の貴志和生教授、荒牧典子先生をはじめとする研究関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

受賞研究のテーマは「肌理形成における表皮角化細胞分裂とKeratin17の関係」です。当教室では、創傷後の皮膚完全再生メカニズムの解明を目指し、マウス胎仔を用いた創傷治癒過程を研究しています。マウスでは胎生13日(E13)までの創傷が完全再生する一方、E14以降では真皮の線維化、皮膚付属器の欠如、肌理の欠如などが生じ、傷跡が残ることが知られています。また、肌理は皮膚の伸縮性を保ち、外部からのダメージを防ぎ、水分量を維持するバリア機能を担うと考えられますが、その形成メカニズムは不明です。機能的な皮膚完全再生には肌理形成の理解が不可欠であると考え、現在研究を進めています。

医学部3年次より研究を始めた際にこの研究テーマを与えてくださり、ご指導くださった先生方にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。来年度、医学部6年生となるにあたり、未熟ながらも創傷治癒領域へ貢献できるよう研究および学業に励んで参ります。この度は誠にありがとうございました。

研究奨励賞を受賞して

鳥取大学 産科婦人科学分野

小松 宏彰

このたび、当研究チームの「産婦人科医が実践する肥厚性瘢痕・ケロイド予防の多施設共同研究」が日本創傷治癒学会 研究奨励賞を受賞しました。この研究は、OGOG projectの一環として、帝王切開術後の創部管理における科学的エビデンスを構築し、より



NEWS
LETTER

日本創傷治癒学会

2025.03

No.146

●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学

医学部形成外科学教室内

tel.03-3351-4774

fax.03-3352-1054

e-mail : info@jswh.com

URL : <https://www.jswh.com>

良い治療法の確立を目指したものです。2021年に発足した OGOG project は、形成外科の創傷管理技術を産婦人科領域に応用し、適切な閉創方法と術後管理を実施することで、術後の肥厚性瘢痕やケロイドの発生率を低減することを目的としています。本研究の途中経過では、OGOG メソッドを用いた創部管理が、特に横切開において肥厚性瘢痕の発生率を大幅に低下させることを示唆する結果が得られました。本受賞を励みに、今後もさらなる研究の発展を目指してまいります。現在進行中の多施設共同研究を継続し、より多くの症例データを蓄積することで、OGOG メソッドの有効性をさらに検証していきます。また、この知見を広く共有し、産婦人科医が質の高い創傷管理を実践できるよう支援を続けてまいります。OGOG project は、産婦人科医自身が創部管理を担うことで、帝王切開後の患者の QOL 向上に貢献することを目指しています。今後も研究を進展させ、全国の医療現場で実践できる標準的なケアの確立を目指して活動を続けてまいります。引き続き、皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

第54回日本創傷治癒学会 研究奨励賞「免疫細胞を介した線維化退縮機構の解明」

三重大学形成外科

細見 謙登

この度は第54回創傷治癒学会研究奨励賞をいただき、大変光栄に存じます。

三重大学形成外科では、完全な組織再生が可能なアカハライモリを対象とし、ヒトでの組織再生の実現をテーマに研究を行っています。我々は特に免疫・リンパに着目して、イモリの創傷治癒を解析しています。イモリでは線維化が起こらないとされてきましたが、この通説を疑い、強い炎症反応が起きるモデルでの創傷を観察したところ、線維化が誘導され、かつその線維化が徐々に消失するという現象を発見しました。さらに、特定の免疫細胞の枯渇化によってこの線維化退縮機構が大きく遅延することから、線維化制御の新たな視点が隠されているのではと考え、現在この現象の詳細な解析を行っています。

成島教授をはじめ、多くの先生のご協力のもと、楽しく研究をできております。この場を借りて、改めて深く感謝申し上げます。今回の受賞を励みに日々精進していければと考えております。そして、研究を聞いた人に面白いと思ってもらえるような魅力的な研究を行っていけたらと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくようお願い申し上げます。

※五十音順・敬称略



漢方製剤にとって「良質」とは何か。その答えのひとつが「均質」である、とツムラは考えます。自然由来がゆえに、ひとつひとつに個性がある生薬。漢方製剤にとって、その成分のばらつきを抑え、一定に保つことが「良質」である。そう考える私たちは、栽培から製造にいたるすべてのプロセスで、自然由来の成分のばらつきを抑える技術を追求。これからもあるべき「ツムラ品質」を進化させ続けます。現代を生きる人々の健やかな毎日のために。自然と健康を科学する、漢方のツムラです。

良質。均質。ツムラ品質。



株式会社ツムラ <https://www.tsumura.co.jp/> 資料請求・お問合せは、お客様相談窓口まで。

医療関係者の皆様 tel.0120-329-970 患者様・一般のお客様 tel.0120-329-930 受付時間 9:00~17:30(土・日・祝日は除く) 2021年4月制作 (審)